

今週の為替相場見通し(2018年12月25日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		110.82 ~ 113.52	111.21	109.00 ~ 111.50
ユーロ	(ドル)		1.1299 ~ 1.1486	1.1374	1.1300 ~ 1.1550
(1ユーロ=)	(円)		126.39 ~ 128.59	126.39	125.00 ~ 127.50
英ポンド	(ドル)		1.2552 ~ 1.2707	1.2630	1.2500 ~ 1.2750
(1英ポンド=)	(円)	*	140.25 ~ 143.24	140.52	138.50 ~ 141.50
豪ドル	(ドル)		0.7030 ~ 0.7204	0.7032	0.6950 ~ 0.7200
(1豪ドル=)	(円)	*	78.21 ~ 81.50	78.33	77.50 ~ 80.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 田家 裕介

(1)今週の予想レンジ: 109.00 ~ 111.50 円

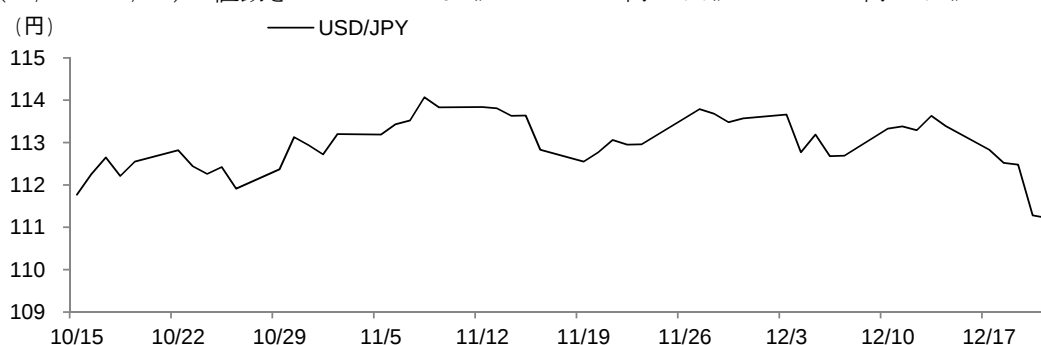
(2)ポイント【先週の回顧と今週と来週の見通し】

先週のドル/円は下落する展開となった。週初17日、113円台前半で取引を開始したドル/円は日経平均株価が底堅く推移する中、週最高値113.52円まで上昇。しかしその後は欧州株が軟調な展開となったことや米12月NY連銀製造業景気指数が予想を大幅に下回ったこと、ナバロ米国家通商会議(NTC)委員長が「FRBは利上げするべきではない」と述べたことから112.69円まで下落。18日、米金利が低下したことから112.25円まで続落するも、米株が上昇する中、ドル/円は112.60円まで反発した。19日、日経平均株価が約2か月ぶりに2万1000円を割り込む中、112.19円まで下落。その後、注目されたFOMCでは市場予想通り25bpの利上げが発表された。パウエルFRB議長が会見で世界経済に注視する必要があることやインフレ率が従来の想定から低いことが示されると米株が大きく下落し、ドル/円も112.09円まで値を下げたが、その後はドル買いの流れとなったことで112.67円まで反発。20日、日米欧の株価が下落したことに加え、ライアン米下院議長が「トランプ米大統領は上院を通過した暫定予算案に署名しないだろう」と発言すると米政府機関閉鎖への懸念が高まったことからリスクオフの展開となったことでドル/円は週最安値110.82円まで大きく下落。しかし21日、東京時間に実需の買いフローが意識される中、111.46円まで反発した。その後は米7月～9月期GDPの確報値が下方修正されたことからドル/円は一時110.94円まで反落するも、米株が上昇する中、ドル/円も反発。結局111円台前半で超週した。

今週から来週にかけてのドル/円は軟調推移になると予想する。FOMCは四半期毎に25bpの利上げを実施してきたが、来年の利上げ見通しが3回から2回に修正されたことでこれまでの継続的な米金利上昇の流れは一服する可能性が高いだろう。先週のFOMC以降、日米欧の株価が大きく下落したことに加え、VIX指数も今年2月以来の水準まで上昇。市場はリスクオフの展開となっており、ドル/円は9月以来の水準まで大きく値を下げた。さらには米政府機関の閉鎖、米中貿易問題、Brexit等、リスクイベントを多数控えている。クリスマス休暇や年末年始のタイミングでリスクオフの流れへの反転を見込んでドル/円を買う市場参加者は少ないと予想され、今週から来週にかけてのドル/円は軟調推移となろう。重要イベントは26日(木)に日銀金融政策決定会合議事要旨、28日(金)に日銀主な意見、1月3日(木)に米12月ADP雇用統計と米12月ISM製造業景況指数、4日(金)に米12月雇用統計が予定されている。

(3)先週までの相場の推移

先週(12/17～12/21)の値動き: 安値 110.82 円 高値 113.52 円 終値 111.21 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

為替営業第二チーム 藤巻 龍太郎

(1) 今週の予想レンジ: 1.1300 ~ 1.1550 125.00 ~ 127.50 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

今週のユーロ/ドル相場は堅調に推移した。週初17日に1.13台前半でオープンしたユーロ/ドルは一時週安値となる1.1299をつけたが、予想よりも弱い内容の米経済指標にドルが売られ1.13台半ばまで上昇した。18日は世界的なドル売りに押され1.14台に乗せたが、予想を上回った米経済指標や米株上昇を受けて1.13台半ばまで下落、その後は翌日にFOMCを控え小動きとなった。19日はイタリアの2019年予算案がEUと合意した旨が報じられ1.14台前半まで値を上げたが、FOMC発表後にドル買い優勢地合いとなると1.13台半ばまで急落した。20日はイタリアが2019年予算案を巡りEUと合意したことが引き続き材料視され一時週高値となる1.1486をつけた。その後は、ユーロ/円の下落にユーロ/ドルは1.14台前半まで連れ安となったが、米政府機関閉鎖への懸念を背景に米株の下落が加速する中でユーロは買い戻され、再度週高値近辺まで反発した。21日については、引けにかけて売りが入り、1.14を割れて1.1374越週している。

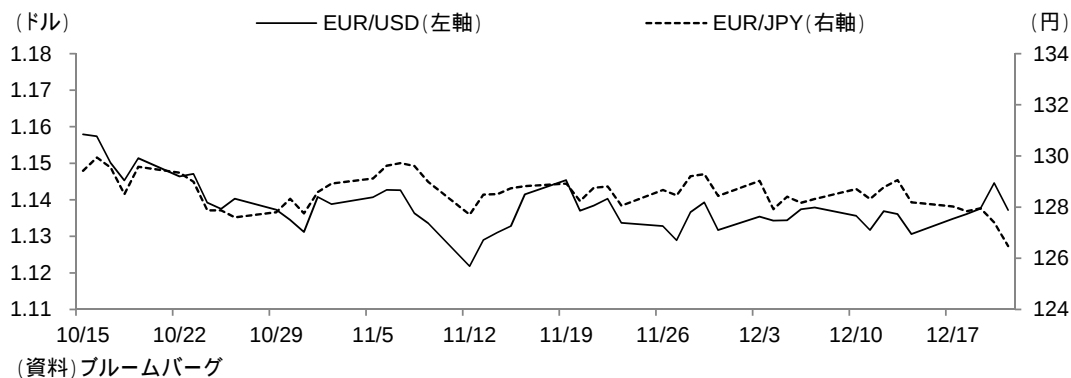
今週と来週にかけてのユーロ相場は底堅い展開を想定。ユーロについては、経済指標はPMIなど芳しくないものが継続。インフレについては、原油価格の下落を受け、上昇圧力が低下。また、政治については、イタリア、ドイツに続きフランスも加わっており、英国ではBREXIT問題も継続中。かかる中、株は下落、金利は低下しており、積極的にユーロを買う環境ではない。一方で、足許の値動きは底堅い。これは上記の悪材料を相応に織り込んでいる可能性があること。そして、これまでユーロ安の一因であった、米ドルの上値が重いことが要因であろう。今週・来週については、目立った材料はないものの、米国では政治懸念などが続いており、米ドルの上値が重いとすると、ユーロは底堅く推移する可能性がある。一段の米ドル安となる場合については、投机筋のショートポジションも溜まる中、買戻しが入り上昇する可能性もある。また、年初については、海外勢の新規のフローが入りやすいことから、相場の動向を注視したい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(12/17~12/21)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1299 高値 1.1486 終値 1.1374

(対円) 安値 126.39 高値 128.59 終値 126.39



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.2500 ~ 1.2750 138.50 ~ 141.50 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対ドルでじり高から横這い、対円でじり安から続落、対ユーロでは下押し後小反発と、主要通貨に対して値動きが分かれた。週明け直後の通貨市場では、ドル全面安が先行。ドル安は、世界的な株価軟調を受けた、リスク回避の円高がけん引したように見えた。また、19日の米連銀公開市場委員会の結果発表を前に、(25bp利上げ予想は揺るがないものの)中立金利水準の引き下げや声明の文言変更など、「金融政策運営姿勢が従来よりも鳩派寄りに傾く」との思惑が市場の一部で共有されたことが、ドルの下げ足を強めた感もあった。結局、米連銀に対しては、「警戒したほど鳩派的ではなかった」との評価が一般的だったが、ドルの軟調はほとんど変わらなかった。米株式市場がそうした米連銀の姿勢(期待したほど鳩派に転じなかったこと)を嫌気し、下げ足を強めたことで、その後週引けに掛け、対円主導のドル軟調は、むしろ一段と勢いを強めたように見えた。19日に前後して、対ユーロでポンドが下押ししたのも、伊政府とEU(欧州委員会)とが来年の予算案で合意に達したことが、相対的なユーロ堅調をもたらしたと考えられ、ポンド側の要因による値動きとは考えられなかった。英固有の要因では、20日発表された英11月小売売上高が市場予想を明確に上振れたのが唯一目を引いたが、ポンドの反応はほとんど読み取れなかった。引き続き、市場は英のEU離脱交渉の混迷に大きな警戒感を抱いており、好材料に素直に反応する地合いになかった模様。19日に発表された英11月CPIは市場予想に沿った内容、20日の英中銀金融政策委員会に対する市場の関心はそもそも低く、いずれもポンドの値動きに影響した様子は読み取れなかった。

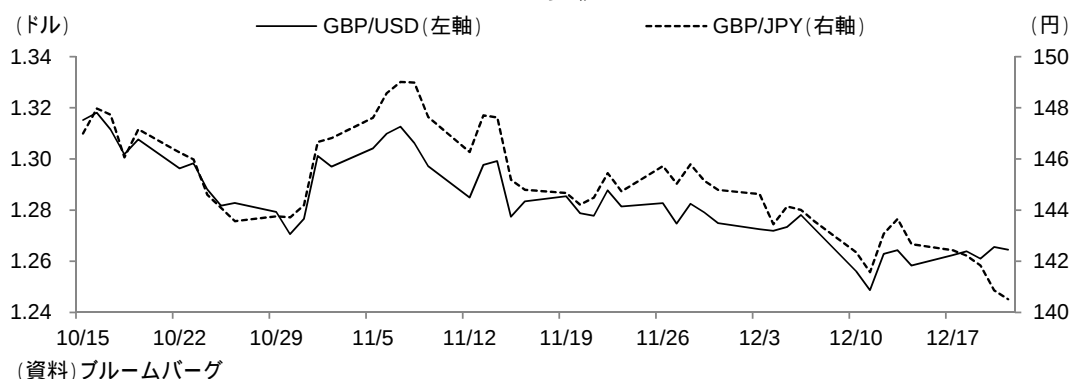
今週・来週の英ポンド相場は、方向感を欠いた膠着を中心に予想。敢えて選ぶならポンド軟調の方が警戒される。EU離脱条件に関する英下院審議については、来年1月14日の議会の冬休み明けを待って再開される予定で、それまでに大きく進展する可能性は低い。EU側も、政治は冬休みに入っているし、そもそも、少なくとも現在までに離脱条件を再考する姿勢を一切見せていない。主要通貨市場の要因として、俄かに浮上してきた感の強い、株安とリスク回避の円高だが、株価が早晚反発に転じる可能性も期待薄と考える。今般の株安の背景にあるのは、米中貿易戦争を筆頭に、英のEU離脱、米政権内の混乱(20日のマティス国防長官の辞任発表は、政権内でトランプ大統領に意見具申できる最後の「重鎮」の離脱と見られており、プリン国家安全保障問題担当補佐官のようにその後有罪判決を受けたケースは特別としても、ティラーソン国務長官、コーン国家経済会議委員長、ケリー大統領首席補佐官、ヘイリー国連大使など、トランプ政権発足時の主要閣僚の大半が現在までに入れ替わることになってしまった)など、一朝一夕に問題解消の見通しが立たない要因ばかり(米予算審議=米公的機関一部閉鎖などは、そんな中では比較的「目途の立つ」問題なのかもしれない)。年末年始の動意に乏しい相場で、もう一段の株安と円高が進む可能性は必ずしも高くないかもしれないが、その底打ち反転が確認される可能性は更に低いと考える。その前提で警戒されるのは、ポンド/円の年初来安値更新ではないか。対ドル、対ユーロなどでの安値は、向こう数週間で試し得る射程距離にあるとは考え難いが、ポンド/円の安値は8月の139.90と、手の届く距離にある。敢えてポンド軟調を警戒するのは、特段のポンド売り要因がなくても、ポンド/円の底割れ、続落がポンド全面軟調を招く可能性を警戒するからだ。

(3) 先週までの相場の推移

先週(12/17~12/21)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2552 高値 1.2707 終値 1.2630

(対円) 安値 140.25 高値 143.24 終値 140.52



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 今村 加奈子

(1) 今週の予想レンジ: 0.6950 ~ 0.7200 77.50 ~ 80.50 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は、0.72台から0.70台へ大きく切り下げた。17日、豪ドルは0.7180近辺で取引始まり、市場注目のFOMC(連邦市場公開委員会)の発表(20日シドニー時間早朝6時)を控え、大きくは動き難い様相で0.71後半で横ばい推移となった。同日、豪州連邦政府から2018年度財政赤字52億豪ドル見通しが示され、前回5月予想時の赤字145億豪ドルからは大幅に縮小される見込み、また2019/20年度は10年以上ぶりに財政黒字に回復見通しが注視された。翌日、一時0.7204まで若干豪ドル上昇する局面があったが0.7200以上での取引は長くは見られず、0.71後半での保合い相場が続いた。19日、FOMCを控え慎重な相場つきながら、米金利引上げ鈍化観測が取り沙汰され市場の注目を集める中、見慣れた0.71半ば~0.71後半で取引された。20日シドニー時間早朝、FOMCは市場予想通り0.25%利上げ実施、声明は若干変更され「いくらかの更なる段階的な」利上げが必要になると示された。Fed金利見通しは下方修正されたが、一部の市場で予想されがほどハト派でなかったことからドル買戻しの動きが広まり、豪ドルは安値0.7088まで急落した。その後0.71前半まで小反発し、ミックスした結果の豪州11月雇用統計には動意薄く0.7100を挟んだ取引が見られた。21日、米予算案が上院で承認されず米政府機関の一部閉鎖リスクから米株式大幅下落、豪ドルは安値0.7030まで下落し安値圏引け。先週の豪ドル/円相場は、81円台から78円台へ急落した。17日、豪ドル/円は81半ばでオープン、81円台で取引されていたが米株式下落を嫌気して80円後半へ下落した。翌日、81円乗せとなるが直ぐに80円後半へ押し下げられ、次第に上値を塞がれる様相が強まっていった。FOMCからの発表までは80円後半で小動きが続き、FOMCドットチャートでFed金利見通しが2019年は3.1%から2.9%へ下方修正されたが、利上げ継続見通しからドル買戻しを受け豪ドル/円は79円半ばまで急落となった。21日、米政府機関閉鎖は不安材料視され、豪ドル/円を78円近辺まで押し下げた。

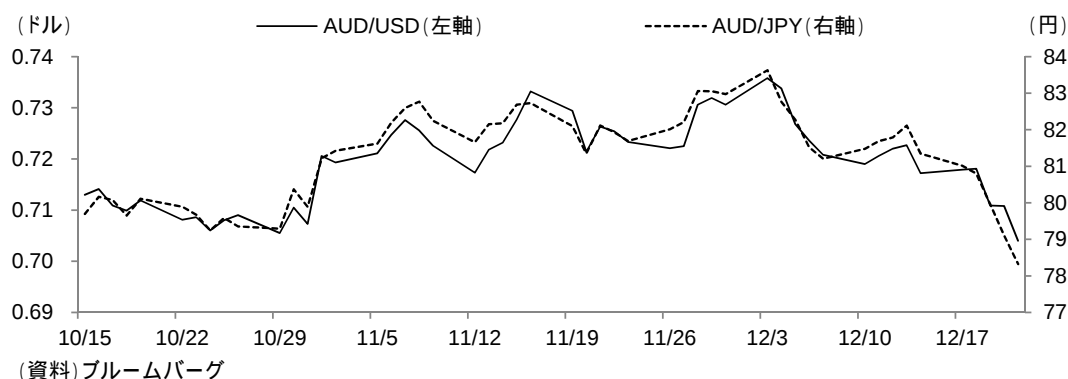
今週と来週の豪ドルは、米政府機関閉鎖が解決しない限り上値が重い展開となろう。今週と来週はクリスマス・年末/年始休暇でマーケット参加者が次第に少なくなる時期であり閑散としたマーケットとなるだろう。シドニー市場は12月25日(火)と12月26日(水)、来年1月1日(火)は休場となり、1月2日(水)からオープンとなる。また、毎年1月だけはRBA(豪州準備銀行)理事会は開催されず、来年最初のRBA理事会は2月5日(火)に予定されている。豪ドルは今年2月から年末に向け下落トレンド継続され12月後半には0.70台で取引された。現在、テクニカル水準ではないが心理的に重要な水準0.7000が近づいており、その水準を下抜けする場合には弱いセンチメントへ大きく傾くので注意したい。0.7000ブレイクした場合は、次の重要なサポートレベルは2016年1月の安値である0.6827となる。

(3) 先週までの相場の推移

先週(12/17~12/21)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7030 高値 0.7204 終値 0.7032

(対円) 安値 78.21 高値 81.50 終値 78.33



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。